

生活の一コマ、紹介します！

《機械科2年 吉川倅暖（蓮田市立黒浜中学校）》

機械科の実習では、自分の手でものをつくる楽しさと同時に、大変なことの先にやりがいがあることを学びました。専門科目で学んだことに生活の中で気づいた時、**工業高校で学ぶ楽しさ**を感じています。いろいろな資格がとれる中で、私は**旋盤技能検定**に挑戦しています。最初は寸法ミスを繰り返していましたが、高い技術を持った先生方にポイントを教えてもらい、工程表を作成できるようになりました。私はこんな宮工に誇りを持っています。



《建築科2年 前川静里奈（上尾市立瓦葺中学校）》

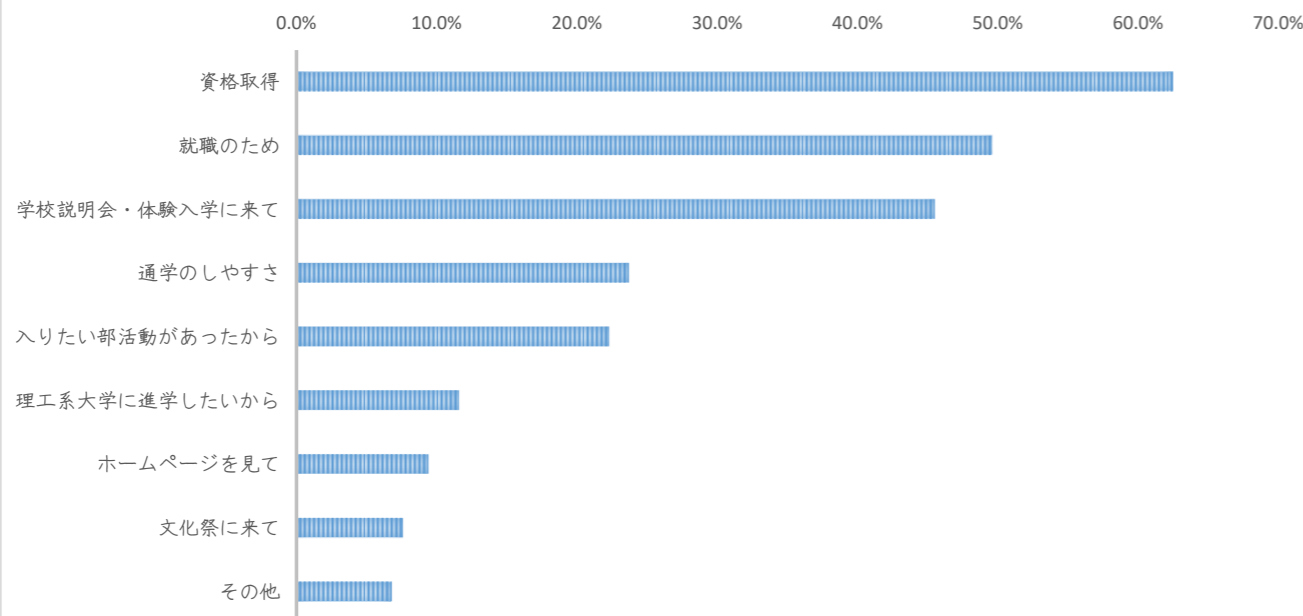
私は生徒会に入っています。中学生までの私は人前に出て発表することが苦手でした。そんな私が生徒会に入ったきっかけは、**自分を成長させるため**と、周りのことをもっと考えられるようになりたいと考えたからです。生徒会の活動は行事の深い部分に関わるだけでなく、書類の作成のような事務仕事もあります。そのような役割をとおして**他学年との交流が増え**、自然にコミュニケーションをとれるようになりました。今年度は「挨拶で始まり挨拶で終わる」学校生活を目標に、挨拶運動に取り組みたいです。



知らないともったいない！～宮工ワンポイント～

卒業後の進路や資格取得など宮工の強みに魅かれた生徒がいる一方、**部活動で結果を出したい、自宅から通学がしやすい**といったポイントで本校を選ぶ生徒もいます。「宮工＝ものづくり」だけではなく、例えば、理科・数学・英語では「**なぜ？**」を考え知識を深める**ハイレベルな学習をする機会**もあります。あなたのための“宮工の良さ”を見つけてください。

新一年生に聞きました～なぜ宮工を選びましたか～



☆次回は『宮工生の3年間』と題して、宮工生が次の進路を決めるまでの道のりをお知らせします

宮工タイムズ

SAITAMA PREFECTURAL OMIYA-TECHNICAL HIGH SCHOOL TIMES



埼玉県立大宮工業高等学校
〒331-0802
さいたま市北区本郷町 1970
TEL 048-651-0445
FAX 048-660-1904
<https://omiya-th.spec.ed.jp>

令和4年は、卒業式・入学式ともに2年ぶりとなる保護者の参列が叶い、学校生活が通常に戻る光のように感じられました。とはいえ、まだまだマスク生活は続きます。中3生のみなさん、体調管理に十分気をつけて高校入試の準備をしてくださいね。

宮工生は“楽しむ”を諦めない！

文化祭、体育祭は、内容を変更しながら2年連続で実施することができました。

体育祭は前例のない荒天の中、泥だらけになって競技に臨みました。みごと、2連覇を果たしたのは1組連合！！今年度はどんな白熱した闘いが見られるのか楽しみです。



“**旋盤**”でつくった、機械科の実演販売作品です。工具を機械に固定し、金属を回しながら削って形をつくります。

文化祭は、製作体験や実演販売など、アイデアの宝庫。“何もないところから考えて作り出す”楽しさを実感できるのは、ものづくりの学校だからこそ！！**今年度の文化祭は10月29・30日です。ご期待ください。**
(来場の条件等はホームページでご確認ください)

環境が整いました～学び編～



昨年度、社会科室を“ソサエティ室”と名称を変えて、全面リニューアルしました。**普通教室をこのように改装するのは、本校だけの特別な事例**です。

楽に移動できる変形可能なテーブルは、個別学習でもグループワークでも利用しやすいです。また、部屋の奥には**レーザー加工機4台と3Dプリンタ**が設置され、工業棟に行かなくても、気軽にものづくりを試すことができます。

ちなみに工業棟には、**新しい工作機械が続々と導入**されています。春休みの期間中に、先生方は使い方の研修を受けました。これらを段階的に運用し、現場で実践できるスキルや精度の高い作業を学べるよう、授業づくりに取り組んでいます。

学校説明会でお披露目ができるでしょうか……お楽しみに！



電気科では3Dプリンタでいろいろなものを作っています。



宮工で何する？

実は、工業高校の勉強は私たちの生活とつながっているところがたくさんあります。今回は4つの学科を簡単にご紹介します。今まで経験したことのない“新しい勉強”を始めませんか？

ものづくりは金属から～機械科～

包丁、ハサミ、カッター、鋸。ドライバー、ネジ、金づち、工作機械。車輪、水道の蛇口、電車のレール、遊園地の乗り物、銅像、お寺の鐘……。部品にも道具にも、**金属は当たり前に使われています。**より強く、よりしなやかに、より薄く、より鋭く……。金属の形を変えていくのは時間のかかる繊細な作業。それだけに、納得いくものができた時の充実感は計り知れません。



ものづくりの前には“製図”と言って、作りたいものを図面におこします。機械科では、『mm』の単位を使って作業をしますが、それは、製品の微妙な差が使いやすさを分けるから。そのような**小さな世界での技術を可能にしたのは“人”技術を生むのも“人”**です。

ものの作り方を学びながら「人ってすごい！！」を実感できるのは新鮮な体験になるはず。あなたも機械科で『1ミリより小さな世界』をのぞいてみませんか？

“建てる”奥深さ～建築科～

「夜は静かに眠りたい」「解放感のあるお風呂が好き」。毎日の生活で、あなたが何気なく「いいな」と感じることは何ですか？風通しの良い空間、気持ちの落ち着く色、心地よい日差し。建築科では、人間の五感を大切にして、**安心安全かつ、自分にも他人にも快適な住空間を学ぶ**ことができます。

ものをつくる時に大切なのは、“**つくった物が相手にとって良い物かどうか**”ということ。建築物でいうと、例えば、京都に出店する大手チェーンは街並みに調和させた色味でつくられていますが、これは、オリジナルの外装が古都の景観に影響を与えるからです。

使う人、つくる人、それぞれの立場になって、あなたも考えてみませんか？



インフラ技術の第一人者～電気科～

普段、私たちが何気なく使っている電気はコンセントにさすだけで使用できます。しかし、その多くは遠く離れた**発電所**で作られています。高電圧で**送電**され、地域の変電所を経て至るところに**配電**され、私たち家庭へと送られています。24時間途切れることなく作られる電気を維持するにはたくさんの設備と人々が関わっているのです。



これらの設備は、使い方を間違えたりメンテナンスを怠ったりすると事故にもつながります。現在日本では、専門知識をもった電気技術者が不足しています。安全で快適な生活を支える電気技術者は、**目に見えないけれど無ければ快適に生活する上で困るもの(=インフラ)**を扱う、大きな責任を担っています。

電気科の学びは、たくさんの人を笑顔にできる仕事につながる勉強です。

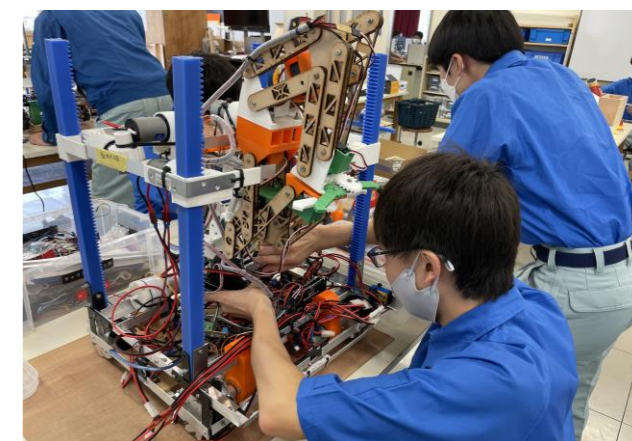
目指せ！未来の先端技術者～電子機械科～

みなさんが便利だと感じる製品の多くは状況に合わせて動きを変えてくれます。室内温度を保つエアコン。近づくと開く自動ドア。自動で掃除をしてくれるロボット。安全に車を走らせる自動運転。なぜ、そんなことが可能なのでしょうか。

人の五感の役割を果たすセンサがさまざまな状況を感知し、それをもとにコンピュータが指示を出すことで動くのです。そのしくみを『制御』と言います。

電子機械科では、そのために必要な、機械・電気・プログラムについて学びます。電子機械科の学びは、新分野で日本を支える可能性を秘めています。

想像力と創造力を働かせて、まだ世の中に無いものを形にしてみませんか？



説明会やってます！

「学校の中を歩きたい！」 → 10月8日(土)・12月17日(土) 学校説明会
「行事を見ながら話も聞きたい！」 → 10月30日(日) 文化祭相談会

*申し込み等、詳細はホームページをご覧ください